古墳研究家・白石太一郎氏が講演

古墳時代の4世紀後半～5世紀後半に建造された大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」が5月14日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産登録の事前審査をする国際記念物遺跡会議（イコモス）から登録がふさわしいと勧告を受け、今年6月末からアゼルバイジャンで開かれるユネスコ世界遺産委員会で世界文化遺産に登録される見通しとなった。それに先立ち3月10日、畿内との深い交流を裏付ける中国製の鏡の発掘で注目されている、瀬戸内海に面した香川県さぬき市津田湾の津田古墳群がある同市津田町で、古墳研究の第一人者・大阪府立近つ飛鳥博物館名誉館長の白石太一郎氏が「津田古墳群・富田茶臼山古墳と大和王権」と題し次のように講演した。

さぬき市の古墳と大和王権

河内王権を支援した瀬戸内勢力

香川県

＊＊＊

津田古墳群から富田へ

私の最大の関心は、四国で最大の前方後円墳であるさぬき市大川町富田の史跡富田茶臼山古墳が、なぜこの時期に、この場所に造られたのかということである。これについて、地元の研究者の成果を踏まえ、私見を披露したい。

津田湾を囲むように古墳時代前期～中期（3世紀後半～4世紀）に造られた津田古墳群は日本史の「謎の4世紀」を解明する貴重な歴史資料として全国の研究者から注目され、国史跡に指定されている。

主要な古墳は6基で、のべ山古墳、赤山古墳、一つ山古墳、岩崎山4号墳、龍王山古墳、けぼ山古墳がそれ。前方後円墳が4基と円墳が2基で、前方後円墳と円墳がセットで構成されていることも特色の一つである。

約150年の短期間に、海沿いの狭い範囲に集中して築造されたのは全国で珍しく、畿内の影響が地方に浸透していく様子が段階的にみられ、古墳時代前半期の縮図と言える。

富田茶臼山古墳は津田古墳群の延長線上に成立したものと思われる。それについては郷土史家の六車恵一など地元の研究者が早くから主張していたことで、それは後の津田古墳群の発掘調査でより明確になった。

＊＊＊

富田茶臼山古墳

富田茶臼山古墳は、墳丘長約140メートルの三段築成の前方後円墳で、周りに馬蹄形の周濠の痕跡をとどめる。周濠の外側にも細い堤を介して一定の幅を持つ帯状の部分がめぐらされていたようだが、その実態はまだ明らかにされていない。

さらに前方部の南側には陪塚と考えられる方墳が3基確認されている。前方部前面の幅はそれほど拡がらず、その先端頂上部は方形の墳状をなすが、後円部の高さに比べると低い。こうした前方形や三角形のものはないことから5世紀中期初頭のものとされている。

私が注目するのが古墳周りの周濠の形状で、馬蹄形だが墳丘左側と右側の濠の外側線は平行ではなく、後円部側に比べて前方部側がやや狭くなり、全体として馬蹄形に近い平面形を呈している。このタイプの類例はきわめて少なく、古墳時代前期末葉の限られた時期に求められ、ごく限られた4世紀後半から末葉に求めるほかない。

前方後円墳の立体的形状は古市古墳群の仲津山古墳（応神天皇の皇后である仲津姫の陵）とよく似ており、円筒埴輪の焼成からしても、年代もそう考えられる。応神天皇陵の埴輪は穴窯焼成によるもので、その次の時代となる。応神天皇の在位は4世紀終わりから5世紀初めで、11世紀に石清水八幡宮が河内源氏に働きかけ、応神天皇陵の前方部分に誉田八幡宮が建立されたことからも、同古墳が応神天皇陵である

白石太一郎氏

ことは確実である。

＊＊＊

津田湾岸勢力の動向

4世紀末葉に富田茶臼山古墳が出現する前提に、古墳時代前期段階における津田古墳群を残した勢力の活躍を考えるべきである。従来、高松市国分寺にある鶯の山石製と考えられていた大阪府玉手山古墳群の安福寺の割竹形石棺を、津田湾岸にある火山（ひやま）の西方の雨山（あめやま）の安山岩と考えるのが、石材が専門である奈良県立橿原考古学研究所共同研究員の奥田尚の見解である。

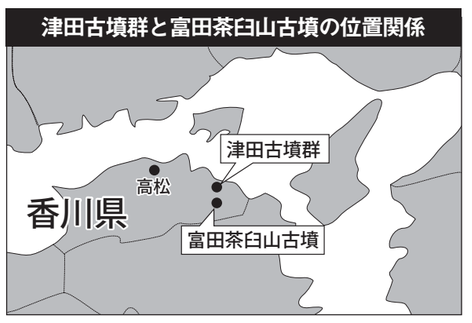
奥田説をとれば、津田古墳群を営んだ津田湾岸の勢力は、早くも古墳時代前期中頃の4世紀前半には、津田湾岸産の石棺を畿内の河内の勢力に供給していたことになる。岸和田市久米田にある竪穴式石室も津田湾の西、志度半島に分布する白色の凝灰岩に似ている。

また、備前市の鶴山丸山古墳の家形石棺の環状突起が熊本県中部の舟形石棺と共通することから、津田湾岸の勢力が有明海沿岸の勢力とも長期にわたり交流し、さらにその提携関係は吉備や畿内の勢力と密接な関係をもっていた津田湾岸の勢力が、新しい河内の勢力を支援して大きな役割を果たしたのであろう。津田湾岸勢力の後背地に、富田茶臼山古墳という四国最大の大型前方後円墳が4世紀末葉に出現する背景には、こうした河内勢力による王権掌握という大和王権の大きな変革があったことは疑いないであろう。

津田・岩崎山４号墳

富田茶臼山古墳

津田古墳群と富田茶臼山古墳の位置関係



始まり、五胡の中国侵入は朝鮮半島にも大きな影響を与え、五胡の一つ鮮卑の攻撃を受けた高句麗は4世紀初めに多くの領土と人民を失う。北で失ったものを南で回復すべく高句麗は南下策をとるようになり、南の百済や新羅は存亡の危機を迎える。兵力に劣る新羅は高句麗に降るが、百済は高句麗に対し軍事力で対決するため、人口の多い倭国と同盟を結び味方につけようとした。

百済と倭国との同盟は、天理市にある石上神宮の国宝の七支刀（しちしとう）からも明らかで、『日本書紀』には4世紀頃、倭に対し百済が朝貢した際に献上されたと記されている。倭国も東アジア激動の波に巻き込まれたのである。

こうした国際的危機に、邪馬台国以来の宗教的・呪術的性格の強い大和王権では対応できず、邪馬台国時代以来、畿内勢力の中で朝鮮半島との交易・外交などを担当していた大阪湾岸や河内湖周辺の勢力が政治のリーダーシップを握るようになった。これに伴い王権が大和から河内の勢力に移動したのである。いわゆる河内王朝の成立である。

この時、瀬戸内中部で九州、吉備、河内などと海上交易などで緊密な関係をもっていた津田湾岸の勢力が、新しい河内の勢力を支援して大きな役割を果たしたのであろう。津田湾岸勢力の後背地に、富田茶臼山古墳という四国最大の大型前方後円墳が4世紀末葉に出現する背景には、こうした河内勢力による王権掌握という大和王権の大きな変革があったことは疑いないであろう。

河内王権と津田湾勢力

邪馬台国の所在地については、古くから畿内説と北九州説に大きく二分されていたが、近年の発掘調査から奈良・大和にあったことが古代史家のなかではほぼ認められている。機内で最古の大型前方後円墳である奈良県桜井市の三輪山のふもとにある箸墓古墳が、かつては4世紀初めとされていたのが、研究が進んで3世紀後半にさかのぼることが明らかになった。その後、さらに考古学的、自然科学的手法により年代が絞られ、3世紀中期すぎとされたことにより、邪馬台国九州説は成り立ちにくくなった。

古墳の造営は大和政権の政治秩序と密接な関係を持つことが多くの研究・調査から明らかになっている。隔絶した規模の古墳が1基ずつそれぞれの地域に築かれている。4世紀末葉以降、後に天皇と呼ばれるようになる大和政権の盟主、すなわち倭国王の墓は奈良盆地から大阪平野南部の古市古墳群や百舌鳥古墳群に営まれるようになる。古墳はその政治勢力の本拠地・本貫地に営まれるもので、これは河内湖周辺の中・南河内や大阪湾岸の和泉北部の勢力が王権を掌握したことを示すものである。問題は奈良盆地からなぜ大阪平野南部に移ったかである。

その背景には、激動の東アジア情勢が影響している。4世紀には遊牧騎馬系の民族が中国に侵入し、その北半を支配下におさめ、漢人の王朝はその南半を支配するにすぎなくなる。南北朝時代の

岡山宗教散歩〔7〕

郷土史研究家　山田良三

重源

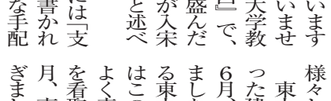
東大寺再建の勧進僧・重源

東大寺勧進職を務めた俊乗房重源は、岡山にゆかりの法然や栄西と深いかかわりをもつ僧でした。

文治2年（1186）に法然が天台僧らと宗論を戦わせた「大原問答」に重源は弟子十数人を伴って参加しました。重源が「南無阿弥陀仏」の念仏を受け入れたことから「重源は法然の弟子」だと言われたこともあります。治承4年（1181）に起きた平氏軍の南都焼き討ちで焼失した東大寺の再建で、後白河法皇は法然に勧進職を要請しましたが、法然はこれを辞し、重源を推薦しました。

重源が栄西と出会ったのは宋の五台山で、以後、親交を結ぶようになります。帰国後、栄西が鎌倉幕府に招かれ、幕府の後援で禅宗を広めた背景に重源の計らいがあったことは間違いないでしょう。

岡山県内には重源の史跡がいくつもあり、最もよく知られているのは岡山市東区瀬戸町万富にある「東大寺瓦窯跡」です。東大寺勧進職を引き受けるにあたり、重源はまず周防国国司を拝命しました。これは東大寺再建に必要な木材を確保するためで、次に備前国司にも任命されたのは、備前国からの租庸を再建資金に充てると同時に、資源や人材・技術を再建に用いるためでしょう。


東大寺の重源上人座像

万富の東大寺瓦窯跡はJR万富駅にほど近い、岡山市から和気町に向かう県道沿いにあります。岡山県の三大河川の一つ吉井川に近いのは水運を使うためです。万富から少し下ったところが備前焼の窯が多くあり、瓦焼きにふさわしい土と技術が当地にあったことがわかります。

重源の事跡を記した『作善集』（南無阿弥陀仏作善集）によれば、重源は全国に7つの別所（東大寺分院）を設け、そこを拠点に勧進を進めました。その一つが備中別所で、藤井駿岡山大学名誉教授は『俊乗房重源遺跡の研究』で、当時栄えていた「新山寺」（現総社市黒尾）と推定しています。新山寺は近くの岩屋寺とともに山岳修行の道場として栄えていた寺です。

新山寺は戦国時代、宇宮です。同社の境内に東堂について藤井氏は、現在の吉備津彦神社（現岡山市北区一宮）だと推定しています。吉備津彦神社は、吉備津彦命を祀る吉備茶臼山古墳のある吉備中山の備前側にある神社で、備前と備中に分国された際、備前側に吉備津彦命を祀った備前国一宮です。同社の境内に東富での瓦焼きのほか、船坂峠の改修など山陽道の整備や備前各地の荘園の開発も行っています。また九条兼実が兼ねた浄土寺に「大湯屋」を設け、庶民に利用させたそうです。

備前で重源が開発した荘園の代表が岡山市北区野田の野田荘で、筆者が住んでいるところです。ここにある今村宮の宮司家から、黒住教の教祖・黒住宗忠が出ていま

「森の教室」を行う西野文貴氏＝5月12日、東京都世田谷区の瀬田玉川神社

神社で「神様と海と森の教室」

学校で習わないことを学ぶ

世田谷・瀬田玉川神社

5月13日、東京都世田谷区の瀬田玉川神社（高橋邦秀宮司）で、第3回「神様と海と森の教室」が開催された。自然についての講話や境内の草木の観察を通して、人間が自然によって生かされていることを知るのが目的で、小中高生約30名が参加した。

子どもたちは正しい神社の参拝作法を学び、高橋知明禰宜の講話「神様の教室」を受けた。「日本という国がどのようにできたかが日本書紀と古事記に書かれている。それを通して、私たちの祖先がどのような世界観、人生観をもっていたのかが分かる。日本文化の根底にあるのが神話だ」。子どもたちは天照大御神の天岩戸隠れや、因幡の白兎の話を興味深そうに聞いていた。

次に、豊洲市場でマグロの仲卸を営む生田與克氏による「海の教室」。自身の体験を交えながら、マグロ漁がいかに危険な仕事かを紹介した。

「マグロは主に大型船で大西洋やインド洋に行き延縄（はえなわ）漁で獲る。一定間隔で枝縄を付けた180キロもの縄を、船を走らせながら海に這わせていく。枝縄に釣り針が付いていて、餌のサンマやイカを刺している。海に張った幹縄から何千本もの枝縄が垂れ、その先につけた餌でマグロを釣る。マグロがかかったら引き上げ、さばく。幹縄を海に這わせる作業が4～5時間、マグロを引き上げる作業に10～15時間かかる。マグロはエラと尾を切り離してはらわたを抜く。マグロの血を一滴でも海に落とすとサメが来るので、船員はマグロの血に浸かりながら作業する。海は波が5メートルにもなり船から落ちる船員もいて、まず助からない。マグロは焼津・清水・三崎などで水揚げされ、消費者に届けられる。だから、感謝して残さずに食べてほしい」

講話の後、炭火焼きのマグロが振舞われ、子どもたちは神妙な表情で手を合わせ、マグロをほおばった。

食後は、東京農業大学地球環境学部森林総合科学科治山・緑化工学研究室の西野文貴氏による「森の教室」。神社の境内を子どもたちと散策しながら、鎮守の木のスダジイを観察したり、クサギの葉のにおいをかいだりした。また、境内に設置したカメラに映っていた野生のタヌキの映像にくぎ付けになっていた。

去年から参加している女の子は「中学生になったので新しい友達を誘って参加した。学校では習わないことを学べるのでおもしろい。来年も参加したい」と話した。

瀬田玉川神社の御祭神は日本武尊、大己貴命、少彦名命。明治18年に役所に提出した旧社名「御嶽神社」の書類には、「戦国時代の永禄年中（1558～70）に村の下屋敷に勧請し、寛永3年（1626）、瀧ヶ谷に長崎四郎右衛門嘉国が土地を寄付し遷宮した」とある。

喜怒哀楽、神々の息吹、神話の世界を未来に伝える
まんが古事記
全7巻
各200円（税込・送料別）
①あまのいわと
②やまたのおろち
③いなばのしろうさぎ
④うみさちやまさち
⑤神武天皇
⑥てんそんこうりん
⑦くにうみ
七五三・お宮参りの授与品に！
○御社名・神紋の箔押承ります。
B5判変型　全頁カラー 20頁
監修/神社本庁　作画/伊沢やすと
まんが古事記の紙芝居
「うみさちやまさち」
1部　1500円（税込・送料別）
お申し込みは 全国神社保育団体連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2　神社本庁内
電話 03(3379)8011(代)　FAX 03(3379)8299

立体樹脂盛りステッカー・お守り作成承ります
交通安全 菩檀寺
交通安全 菩檀寺
交通安全 菩檀寺
レジンステッカー
ステッカーの表面を樹脂で盛り上げた物です。
通常の塩ビステッカーより高級感があります。
サンプルをお送りします。
紅白幕トロピカル　1間×5間 4900円
提　灯・・・装飾用の提灯から、本格的な和紙、太骨提灯まで各種揃えております。
のぼり・・・オリジナルのぼり1枚から作成します！のぼりには、ポールがサービスで付いて格安です（価格表もございます）。
幕　・・・各種既製幕も、オーダー幕もございます。
菩檀寺 交通安全
お待ちしています
オリジナルお守り
うちわ・扇子・カレンダー・お祭り用品・抽選用品等も取扱い
詳細は PR用品のぼたんや
Googleでも Yahoo!でも
ぼたんや 検索
www.pr-youhin.co.jp
お問い合わせはこちら
0120-480-480
FAXのご返信はこちらへ
054-643-4319
有限会社菩檀屋（ぼたんや）
〒426-0031
静岡県藤枝市築地320-7